

経営比較分析表（令和2年度決算）

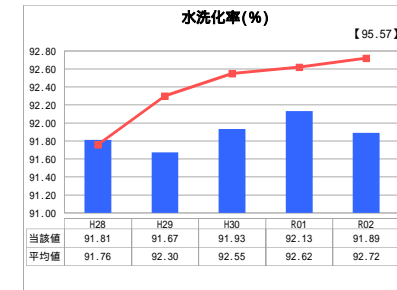
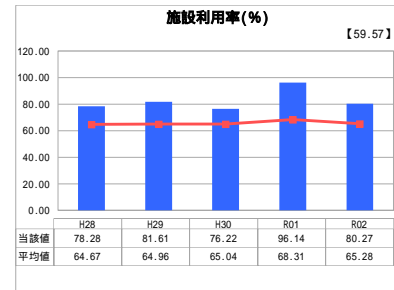
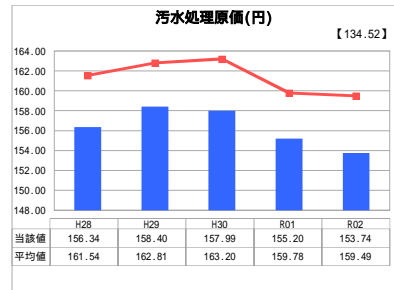
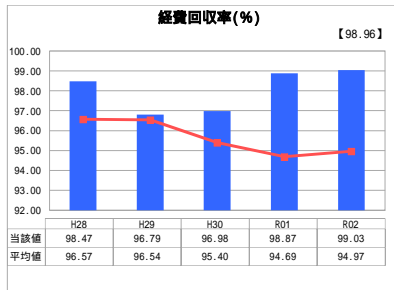
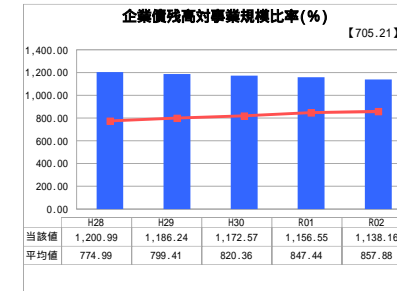
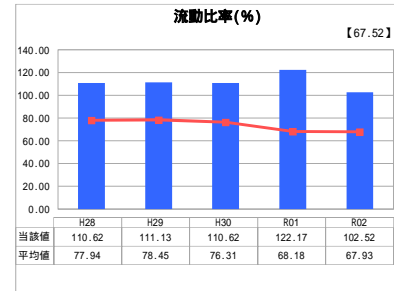
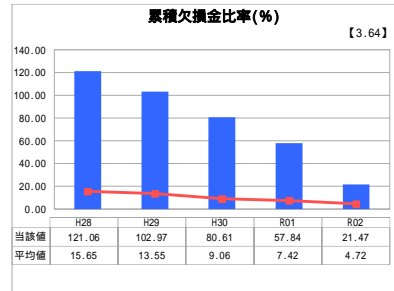
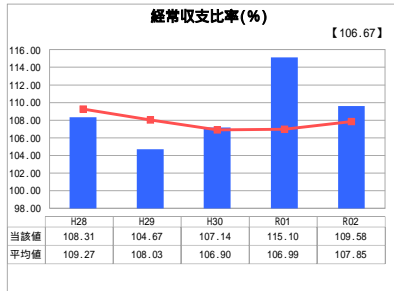
福島県 南相馬市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	55.87	55.05	60.52	2,722

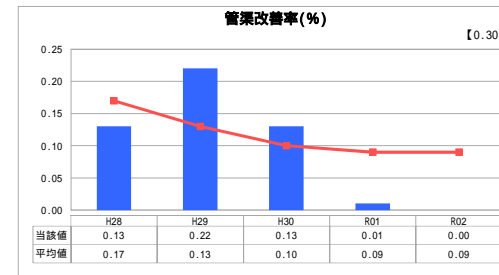
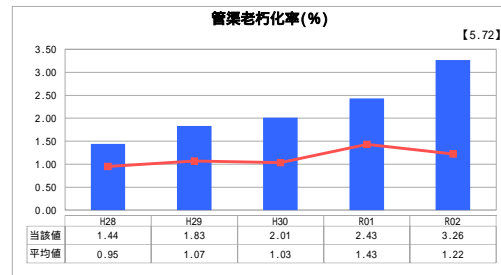
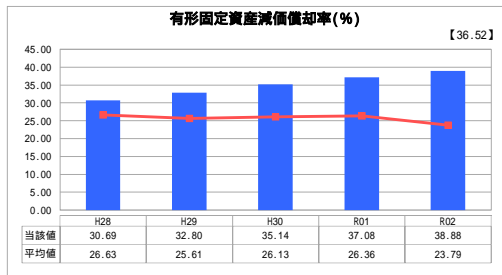
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
59,018	398.58	148.07
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
32,317	10.71	3,017.46

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率
修繕費等の維持管理費や資産減耗費が減少したことなどから、前年度と比較して営業費用が減少したが、長期受入金戻入の減少などにより営業外収益が大幅に減となったことから、経常収支比率は減少した。

しかし、これは前年度における資産の除却に伴う影響であり、経常収支比率は100%を超えており、全国平均及び類似団体の平均値を上回っていることから、概ね健全な経営状況といえる。

累積欠損金比率
東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故の影響により、当市の累積欠損金が大きく増加したが、平成26年度以降は毎年純利益を計上しており、未処理欠損金は着実に減少している。

しかし、今後は人口減少により使用料収入の減少が見込まれること、東京電力の賠償金による特別利益が減少していくことを見込まれることから、更なる経費の縮減に努めていく必要がある。

経費回収率
経費回収率は前年度より伸びており、全国平均及び類似団体の平均値を上回っている。

しかし、近年、施設の老朽化に伴う維持管理費が増えていることから、使用料収入の将来的な見込みを踏まえた分析が必要である。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率
有形固定資産減価償却率は、法定耐用年数に近い資産が多いため類似団体平均値より高い状況である。これは、供用開始の早い原町区において老朽化した管渠が多いことに起因している。

管渠老朽化率
管渠老朽化率は年々増加傾向にあるが、長寿命化計画に基づいて優先順位の高い区域から段階的に管渠更生工事を行っている状況である。

管渠改善率
現況調査を行いながら最適な更新を進めており、今後も継続して適切な維持管理に努めていく必要がある。

全体総括

当市の公共下水道事業は、東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故の影響により、一時的に財政状況が悪化した。平成26年度以降は毎年純利益を計上しており、経営状況は回復の傾向を示している。

しかし、近年、施設の老朽化に伴う維持管理費が増加していることから、長寿命化計画に基づいた管渠及び施設の更新が必要である。

また、今後、人口減少に伴う使用料収入の減少が見込まれることから、現行使用料の妥当性や見直しの必要性を検証するとともに、平成28年度に策定した経営戦略における中長期財政計画の検証及び見直しも行っていく必要がある。